

第4回 「ぼうさい探検隊フォーラム」 報告書

社団法人 日本損害保険協会 会員会社一覧

あいおい損保	セゾン自動車火災	日本興亜損保
朝日火災	ソニー損保	日本地震
アニコム損保	損保ジャパン	日立キャピタル損保
エイチ・エス損保	そんぼ24	富士火災
SBI損保	大同火災	三井住友海上
共栄火災	東京海上日動	三井ダイレクト
ジェイアイ	トーア再保険	明治安田損保
スミセイ損保	日新火災	
セコム損害保険	ニッセイ同和損保	

2008年3月現在 (会員会社25社50音順)



- 日 時 2008年1月19日 13:30 ~ 16:15
 会 場 「浜離宮朝日小ホール」 朝日新聞東京本社新館2階
 主 催 日本損害保険協会 / 朝日新聞社 / ユネスコ /
 日本災害救援ボランティアネットワーク
 後 援 内閣府 / 総務省消防庁 / 文部科学省 / 警察庁 / 全国都道府県教育委員会連合会 /
 アジア防災センター / 日本ユネスコ協会連盟

社団法人 日本損害保険協会
 〒101-8335 東京都千代田区神田淡路町2-9
 URL <http://www.sonpo.or.jp/>

【お問い合わせ先】生活サービス部
 TEL:03-3255-1294
 FAX:03-3255-1236

社団法人 日本損害保険協会

第4回「ぼうさい探検隊フォーラム」プログラム

- 13:30 主催者代表挨拶
半田勝男(社団法人日本損害保険協会 専務理事)
- 13:40 第4回「ぼうさい探検隊マップコンクール」表彰式
文部科学大臣賞、防災担当大臣賞など優秀作品を表彰
- 14:30 「ぼうさい探検隊実践事例」の報告
～これから「ぼうさい探検隊」を始めるためのヒント集～
小林元子氏(東京都目黒区立五本木小学校 校長)
永井清美氏(福島県相馬市川原町児童センター 所長)
佐藤 健氏(東北大学大学院工学研究科附属災害制御研究センター 准教授)
コーディネーター: 田和淳一(日本損害保険協会 生活サービス部 安全安心推進グループリーダー)
- 15:30 基調講演「これからの防災教育について」
室崎益輝氏(総務省消防庁 消防大学校消防研究センター 所長)
- 16:10 閉会挨拶
粕谷卓志(朝日新聞社 編集担当兼ゼネラルマネジャー兼東京本社編集局長)
- 16:15 閉会

(司会: 中里雅子)

目次	
主催者代表挨拶	2
表彰式・受賞者インタビュー	3
ぼうさい探検隊実践事例の報告	5
基調講演「これからの防災教育について」	7
閉会挨拶	9
アンケート結果	10

主催者代表挨拶



社団法人日本損害保険協会
専務理事 半田 勝男

近年、地球温暖化の影響もあって、豪雪や台風、梅雨前線による集中豪雨災害など、多くの自然災害が日本のみならず世界中で発生しています。

また、昨年三月には能登半島地震、七月には新潟県中越沖地震が発生し大きな被害が発生しました。こうした自然災害で被害に遭われた方々に対し、心よりお見舞い申し上げます。

さて、損害保険はこうした災害や事故によって生じた経済的な損失を補償することで復旧のお役に立つことが保険本来の機能であり、そのため日本損害保険協会の会員各社は迅速な保険金のお支払いをすることで、「安心」をご契約者の皆様にお届けしています。

また、損害保険には事故や災害被害を軽減するという「安全」の機能もあり、会員各社や当協会は防災情報や防災技術を広く社会にお届けしております。

この「ぼうさい探検隊」は、「安全」と「安心」の機能にかかわるもので、私ども日本損害保険協会が広く普及に力を入れている取り組みです。

「ぼうさい探検隊」の素晴らしい点は、子どもたちが知らないうちに「防災知識」を身に付けてもらえるということ、更には「まちなか探検」をサポートしていただいたボランティアの方々、保護者の皆さん、指導された指導教諭の先生そして地域の皆さんといった多くの方々のコミュニケーションが図れるとともに、かかわった方々も自然と「防災知識」を身に付けていけるということにあります。



防災についての情報はいろいろな形で発信されており、皆様もそれなりの知識はお持ちかと思えます。しかし、こうした知識を単に知識にとどめるのではなく、真に身に付けるためにも、この「ぼうさい探検隊」を子どもたちと一緒に経験されることがきっと役に立つものと確信しております。

そこで、本日のフォーラムは、大人が子どもに防災を教えるのではなく、大人も子どもと一緒に「防災を学び、そして育てていく」ことを願って「防災教育から防災共育へ」とのテーマを掲げ、開催することとしました。

四回目を迎える「ぼうさい探検隊マップコンクール」には、実に一万人を超える児童が参加されました。ボランティアや保護者の方々など多くの大人の皆さんを加えると数万人の方が、この活動に参加いただいたこととなります。

回を重ねるごとに、着実に広がりを見せているこの活動が地域全体を巻き込んで、安全で安心な地域社会づくりに取り組む機会となれば、甚だ幸いです。



第4回「小学生のぼうさい探検隊マップコンクール」表彰式

第4回「小学生のぼうさい探検隊マップコンクール」には、全国の小学校や子ども会など257校・団体から、1374作品もの応募があり、入賞7団体に対して次の通り表彰を行いました。 昨年の応募数は、224校・団体(小学校118、団体106)、1052作品



入賞団体・プレゼンター

文部科学大臣賞

受賞団体：静岡県浜松市立伊平小学校「チーム女子刑事セブン」

プレゼンター：文部科学省スポーツ・青少年局学校健康教育課 課長補佐 梶山正司 氏

防災担当大臣賞

受賞団体：高知県四万十町立興津小学校「興津っ子」

プレゼンター：内閣府企画官(防災担当)災害情報調査室長 山谷英之 氏

消防庁長官賞

受賞団体：福井県あわら市細呂木小学校「細呂木守っ隊」

プレゼンター：総務省消防庁国民保護・防災部 防災課長 金谷裕弘 氏

まちのぼうさいキッズ賞(ユネスコ提供)

受賞団体：北海道斜里町立峰浜小学校「シマトッカリぼうさい探検隊」

プレゼンター：文部科学省国際統括官付ユネスコ協力官 秋山和男 氏

未来へのまちづくり賞(朝日新聞社賞)

受賞団体：兵庫県新温泉町立春來小学校少年消防クラブ「春來小学校ぼうさい探検隊」

プレゼンター：朝日新聞社編集担当兼ゼネラルマネージャー兼東京本社編集局長 粕谷卓志

わがまち再発見賞(日本災害救援ボランティアネットワーク賞)

受賞団体：ガールスカウト日本連盟長野県第34団「もみじっ子防災探検隊」

プレゼンター：日本災害救援ボランティアネットワーク常務理事 寺本弘伸

ぼうさい探検隊賞(日本損害保険協会賞)

受賞団体：北海道上富良野町少年消防クラブ「ひなん所メグレんジャー」

プレゼンター：日本損害保険協会 常務理事 志謙敬

受賞者インタビュー



【文部科学大臣賞「チーム女子刑事セブン」野末 幸さん】

- おめでとうございます。みんなに今日の表彰式のことを何と伝えましょうか？

賞状をいただいて感激しました。みんなで協力してマップを作り上げたので、みんなで「頑張ったね」って言いたいです。



【防災担当大臣賞「興津っ子」黒岩 唯織さん】

- 受賞した感想を教えてください。

みんなで協力して一生懸命作った防災マップが賞に選ばれて、言葉にできないくらいうれしいです。これからも地域のために役立つ防災活動に取り組みたいです。



【消防庁長官賞「細呂木守っ隊」森川 晴香さん】

- マップ作りは、どのように進めていったのですか？

クラス全員で細呂木地区の危険箇所について調べ、防災の問題点などをみんなで分担して調べてマップにしました。



【まちのぼうさいキッズ賞「シマトッカリぼうさい探検隊」加藤 菜央さん】

- マップを作る時、どんな点を工夫しましたか？

みんなと協力して、わかりやすくなるように工夫しながらマップを作りました。特に絵をがんばって描きました。



【未来へのまちづくり賞「春來小学校ぼうさい探検隊」小谷 尚頌さん】

- マップは何人で作ったのですか？

1年生から6年生までの10人で作りました。ぼくは6年生なので最後にこんなにいい賞を頂いてとてもうれしかったです。



【わがまち再発見賞「もみじっ子防災探検隊」田中 琴美さん】

- 詳しくて大きな地図ですね。マップを作る時、どんな点を工夫しましたか？

実際に養輪の災害現場に行って撮ったたくさんの写真や調べたことをまとめ、工夫してマップに貼りました。



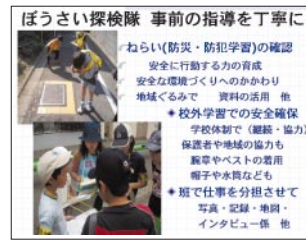
【ぼうさい探検隊賞「ひなん所メグレんジャー」山本 健太郎さん】

- マップ作りで工夫した点を教えてください。

誰もが見やすいマップにしようと、十勝岳や店などのマークに発泡スチロールを使ったり、めくって見られるように工夫をしました。



東京都目黒区立五本木小学校 校長
小林 元子氏



もたちにとってはどういうものが安全マップなのか、なかなか理解することができません。例えば、前年度のものであればそれを活用したり、モデルになるような良いマップを直接見ることも大切です。

マップ作りで学習したことをどう伝えていくかという工夫では、マップをパズルのクイズにして全校児童へ伝えました。

ぼうさい探検隊による成果では、地域の方々が倉庫の落書きを消して下さいました。さらに、「わんわんパトロール」の登下校の見守りも始まり、地域の方々が積極的に参加して下さいました。放置自転車やごみの放置、違法駐車などに対しても敏感になりました。また、防犯に関わるポスターなどの制作が行われ、地域の中に掲示されるようになりました。

結果として、単なる生活安全、交通安全、災害安全という視点だけでなく、日常の授業の充実が図られ学力の向上も見られました。広い意味で子どもたちに生きる力をつけてくれる、ぼうさい探検隊であると思います。

五本木小学校では、子どもたちに安全に行動する力を身につけさせるために、子どもにもできることは何かという事に視点を置いて取り組んでいます。

校外学習での安全確保では、校内の職員を配置し、地域の方々や保護者の方々にもご協力をいただいています。また、腕章やベストの着用、季節によっては帽子や水筒なども用意します。探検隊は班単位で行動するので、リーダーとなる班長を中心に、写真や記録、地図、インタビュー係など責任を持って取り組ませています。

フィールドワーク後のマップ作りでは、初めての子ども



福島県相馬市川原町児童センター 所長
永井 清美氏



2、3回集会を行って時間をかけてやるということが、無理なく進める方法だと思われます。

マップ作成後の働きかけは、消防署長、警察署長、相馬市長を訪問し、マップを見せたり、子ども自ら防災提言を行いました。子どもたちの変化としては、危険に対する意識がとて高まりました。そして、お互いを思いやる心が育ち、危険を知り、自分たちで仲間を注意し合えるようになりました。地域の方々も悪いときは叱り、良いことをしていると我が子のように褒めてくれるようになりました。

ぼうさい探検隊のマップ作りは、自分一人でやろうと思わず民生児童委員、そして、区長さん、老人クラブの皆さん方と協力し、日ごろからボランティア活動を通し、消防署、警察署、市役所防災課等とコミュニケーションを深めておくことが大切だと思います。「マップ作りはわが家から」を合い言葉に、早速わが家の避難マップに挑戦したり、近所のお子さんと一緒にマップ作りに参加してみませんか。未来を担う子どもたちのためにも、即行動に移そうではありませんか。

児童センターの子どもたちは、毎年センター行事に老人クラブ会員を招待し交流を図っていることから、独り暮らしのお年寄りが多いということに、子ども自ら気付きました。そして、お年寄りを守りたいと、お年寄りの避難マップ作り挑戦したのです。まちなか探検の日には学校から早く帰宅する日に決め、全員で参加し、その後の作業は前日に子どもたちと一緒に話し合い、年齢に応じて分担を決めて時間をかけて少しずつ作り上げるという工夫をしました。なかなか集まる機会がない場合は、



東北大学大学院工学研究科附属災害制御研究センター
准教授 佐藤 健氏



平成16年度から3年間、地域防災力高度化のための1つのアプローチとして、文部科学省の防災研究成果普及事業において、ぼうさい探検隊のプログラムを取り入れたモデル事業を実践しました。

この事業は、産官学連携に基づいて、大学単独ではなく、モデル町内会、町内会の育成会、PTA、子ども会、行政が関わり、大学などが持っている災害情報や、自然や社会の様々なデータベースなどを利用してワークショップを運営しているところが特徴です。

工夫した点としては、同じエリアを次の年の子どもたちが、まちなか探検をして変化をチェックしたことで、

ぼうさい探検隊実践事例の報告

～まとめ～



日本損害保険協会 生活サービス部
田和 淳一

阪神淡路大震災から13年が経過しました。当時、私は、地震に遭われ被害を受けた方の損害処理対応で、しばらく現地におりました。被災地では、最初は地震による被害状況や行政の対応などについて、いろいろな情報が必要とされました。2週間位を過ぎると今度は、個人に直接かかわる問題として、地震にあった住宅のローンの返済をどうしたらいいのかといった、お金の問題が見えてきます。このように防災のひとつとして、災害に遭った

子どもたちは「ここが直っている」「去年と同じだ」など、様々な成果を持つことができました。また、子どもワークショップの成果を、大人のワークショップにも還元して活用しました。

実践後の子どもたちは、「大人は地域のことをよく調べてほしい」「去年調べて危ない場所が改善されていないで残念だった」など子どもたちなりに、その地域の防災に役立つ取り組みができていたと感じました。

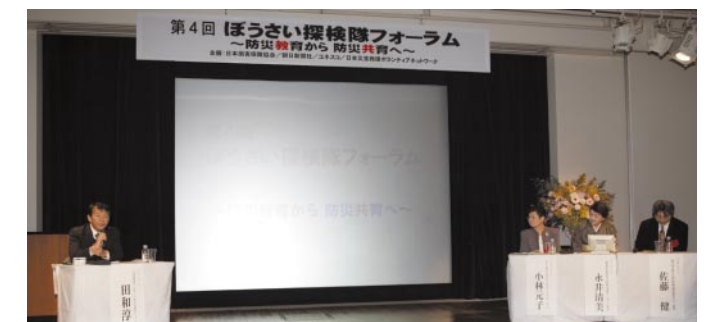
また、活動の内容を町内会の回覧などの広報で報告し、自発的に大人のぼうさい探検隊に発展した例もありました。ある町内会では、子どもたちのマップや意見を大人に提示すると、防災対策上の優先課題として、危険な箇所を改善するという回答もありました。

3年間の活動の中で、安全・安心なまちづくりに対する、子どもたちのモチベーションの高さを確認しました。この活動は、子どもたちが積極的にモニターとなることで、地域の大人たちによる地域防災力高度化に貢献できる可能性があります。子どもたちにもっと活躍の場が与えられることを願ってやみません。

後の経済的な備えをしておくということも、前もって考えねばなりません。ぜひ損害保険についての知識を持っていただきたい。

損害保険は、相互扶助の仕組みで「一人は万人のために、万人は一人のために」という理念があります。少額のお金を出して誰かが困ったときにお金を供出する。これが保険の仕組みです。

ぼうさい探検隊の活動を通して、私たち大人も、「一人は万人のために、万人は一人のために」の精神を持って、安全で安心なまちづくりを進めていきたいと思えます。



基調講演「これからの防災教育について～審査総評をふまえて～」



総務省消防庁 消防研究センター 所長
室崎益輝氏

災害に強くなる防災教育

この21世紀は、このままでは1年間に2万人から3万人の命が事故や災害で失われる時代を迎えるといわれています。しかし、私たち人間が頑張れば、この2万人が1万人になり、1万人が5000人になり、もっと頑張れば5000人が2000人になる可能性もあります。だからこそいま、人は人を救うことができるということを、しっかりと考えなければいけないと思います。そのためには、人間が災害に強くならなくてはなりません。防災教育とは、まさに人間が強くなるために、自分の命を守るために、そして家族や地域社会を守るために教育をすることだと思えます。



ある小学校で質問をしてみました。「災害に強い人ってどんな人？」と聞くと、まず「おまわりさん」「消防士さん」という答えが返ってきました。そのうちに1人が「お相撲さん」と言いました。では、強いお相撲さんとは、どういう人を強いというのかと考えてみました。お相撲の世界では「心・技・体」の3つがないと強くなれません。しかし、このことはお相撲さんだけではなく、私たち自身も心と技と体を持たないといけません。災害に強い人間には、勇気と思いやりのある防災の「心」、知識と技能のある防災の「技」、地域とのつながりを持つ防災の「体」の3つが欠かせないものとなります。それを身につけるために、防災教育が役立っているのです。

防災教育に大切な5つの要素

防災教育では、「感じる、学ぶ、考える、鍛える、つくる」の5つが大切な要素となります。「感じる」とは、まちを探検する中で、子どもの目で問題や変化を感じたり、気づくということです。そして、感じただけではなく、それをなぜだろうと「学ぶ」、さらに何だろうと「考える」。このように学び考えていくことにより、防災教育は深まりを見せていきます。

災害に強くなるぼうさい教育

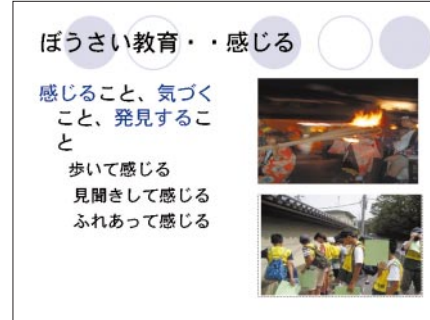
感じる、学ぶ、考える、きたえる、つくる、の5つが大切！

- まず、感じること
- つぎに、学ぶこと
- そして、考えること
- さらに、きたえること
- さいごに、つくること

さらに、子どもたちが災害に強い体と心を持つためには、「鍛える」という意識も必要です。例えば「津波が来るぞ！」と大声で知らせたり、消火器がちゃんと使えるようになることも「鍛える」のひとつだと思います。5つめの「つくる」ですが、私たちは最終的に、安全・安心な社会を「つくる」という大きな目的があります。そして、ぼうさいマップを作ることや提案を作ること「つくる」のひとつです。

マップから伝わる子どもたちの「発見」の豊かさ

今回の審査で特に感じたのは「ぼうさい探検隊」の活動の密度が高くなっていることでした。まちの隅々まで歩き、さまざまな角度から、防災・防犯・交通安全の問題をとらえようとしている姿勢が、多くの作品からうかがえます。子どもたちの「気づき」が豊かになり、いままでにない新たな発見も見られます。「興津っ子」のマップでは、橋の下から見るとコンクリートから鉄筋がむき出しになっている箇所を発見し、「橋が危ない」と記しています。「春來小学校ぼうさい探検隊」では、水の少ない土地での「ため池」という知恵を発見し、学んでいます。



子どもの目線を感じる作品も増えています。例えば、火災をテーマにした「細呂木守っ隊」では、道路のまん中にある消火栓について、このような場所にあつて消防の人が水をちゃんと出せるのかを指摘しています。また、自転車に乗ってみて危険な場所を確認する、ガードレールが途中で切れている所を見つけるなど、子どもたちの素直な視線でしかわからない発見をしている作品もあります。

マップづくりが地域への働きかけに

マップの提案力が非常に高くなっていることも注目すべき点です。ただ「危険な場所に近づかないようしよう」「犯罪に気をつけよう」と呼びかけるだけでなく、どこにどのような危険・問題があるのかを正確にとらえて伝え、的確な改善策を示しています。「チーム女子刑事セブン」では、マップで提案することによって地域に働きかけて実際に改善させていました。社会に対してアピール性を

しっかり持った提案といえます。「シマトツカリぼうさい探検隊」では空家が多いことに気づき、問題提起をしています。これまで防災や防犯対策といえば、子どもが大人に学ぶと考えられてきましたが、これらの作品を見ると、子どもが中心となりそれに大人たちが巻き込まれて地域の防災を考えるようになってきていると感じました。



広がっていく「ぼうさい探検隊」活動の視野

ぼうさい探検隊の取り組みを通じ、これだけ多くの子どもたちが地域に関心を持ち、たくさんの人たちと出会い、防災・防犯・交通安全の知識を学んでいるのは、素晴らしいことです。活動の裾野が広がっていることも大きな収穫のひとつです。今後も、日本中のあちこちで「ぼうさい探検隊」活動の芽が膨らむことを期待します。



閉会挨拶



朝日新聞社 編集担当兼ゼネラルマネージャー
兼東京本社編集局長 柏谷卓志



1,300点を超す応募の中から、栄えある賞を受賞された皆さん、本当におめでとうございます。そしてこの活動を支えてくださった先生、保護者、指導者の方々、本活動に参加してくれたすべての子どもたちに、心より感謝申し上げます。

このコンクールはおかげさまで第4回を迎えましたが、応募のすそ野は広がり続けています。防災に対する子どもたちの関心の高さが、こうした「ぼうさい探検隊」の活動に現れてくるのだと思います。応募作品を見る審査員も、大変うれしい悲鳴を上げていたと伺っております。

1983年に秋田県の日本海中部地震がありましたが、私も記者として現地入りしました。男鹿半島の津波の被害で、遠足に来ていた小学校の児童が犠牲になった現場でした。あのときに、多くの日本人の心の中に、地震があったら高台へという意識があったら、また防災マップを作って学んだ皆さんのように防災への意識があったら、

尊い命は守られていたかもしれない、そんな思いをいたしました。

昨年は、新潟の中越沖地震の現場にも行きました。柏崎市の避難所に行きましたら、たくさんの方が避難をしていました。大きな被害を受けましたが、子どもたちは避難所でも元気に過ごしているようでした。お年寄りの方々は「沈みがちな避難所で子どもたちの声を聞くとほっとする」「元気をもらおう」と言っていました。

皆さんは、このマップ作りでいろんなことを学んだと思います。そうした防災意識をこれからも持ち続けて、お友だちや家族、周囲の人たちに広げていただきたい。もし日本のどこかで残念ながら災害が起きたときに、皆さんが冷静で適切に行動できるよう、これからも力をつけていただきたいと思います。私どもも、今後この「ぼうさい探検隊」を通して少しでも災害被害の軽減につなげられるよう、お手伝いしていきたいと考えております。

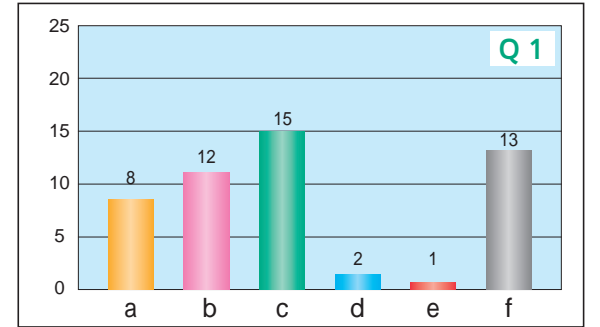


アンケート結果

参加人数：220名 アンケート回収数51枚 回収率：23.2%
 回答者性別：男性33名、女性18名
 回答者年齢：10歳代...4名 20歳代...4名 30歳代...13名 40歳代...15名 50歳代...13名 60歳代...2名
 回答者所属：教育関係者...4名 消防・警察関係者...5名 学生...3名 行政関係者...4名 損保関係者...10名 その他...25名

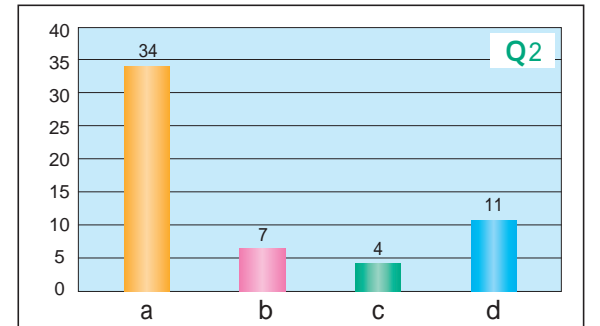
Q1. 今回のフォーラムを何でお知りになりましたか？

- a. 日本損害保険協会のホームページ 8名
- b. 開催チラシ 12名
- c. 友人・知人の紹介 15名
- d. 新聞 2名
- e. メルマガ 1名
- f. その他 13名
(子どもが受賞したから、職場での案内、防災情報誌、ガールスカウト通信 等)



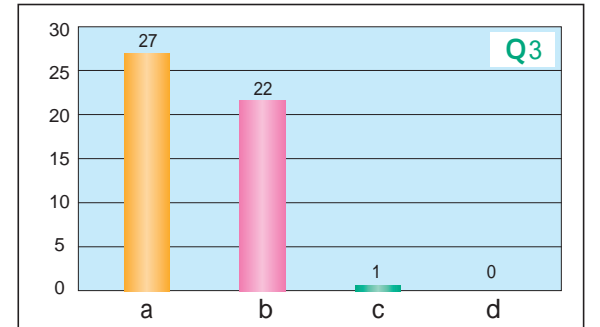
Q2. 今回のフォーラムに参加された動機(理由)をお聞かせください。

- a. 防災教育に興味があった 34名
- b. テーマに興味があった 7名
- c. 出演者に興味があった 4名
- d. その他 11名
(内容に興味があった 等)



Q3. 今回のフォーラムの感想はいかがですか？

- a. 大変興味深かった 27名
- b. 期待どおりであった 22名
- c. やや期待はずれであった 1名
- d. 期待はずれであった 0名



<a,bの主な理由>

- ・ 取り組みの事例や体験談が聞け、参考になった。
- ・ 各地域、各学校の取り組みがよくわかり、参考になった。
- ・ 実践報告、基調講演ともにすぐに役立つ内容であった。
- ・ このフォーラムを通じて、防災の備えとして、普段からの地域、近隣住民とのコミュニケーションが大切だと知ることができた。
- ・ 普段防災についての意識が低いので、様々な取り組みを知ることができてよかった。 等

<c,dの主な理由>

- ・ もう少し大きいホールで実施してもらいたかった。

Q4. 今回のフォーラムで特に印象に残った内容を簡単にお聞かせください。

- ・ 子どもの教育が親の教育につながる。
- ・ 組織の力と感ること、考えることの重要性を再認識した。
- ・ 受賞者の防災マップを直に見て、創造性や質の高さに驚いた。
- ・ マップ作成を通じて、子どもたちが老人を思いやる気持ちをもったことは有意義である。
- ・ 永井さんの事例報告で、子どもたちの提言が行政を動かした例をはじめ聞き感銘した。
- ・ 室崎先生のお話の中の『防災教育は「考える」ことが大切である。子どもの気づきが考えることにつながり、力になる』という部分が、大変印象に残り、実践していきたいと感じた。
- ・ 室崎先生の講演は、内容的にも興味深かったが、使用していた資料にひらがなを多く使うなど、子どもにもわかりやすい講演のスタイルでよかった。